

23日 月曜

Iコリント

10:23 すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが徳を高めるとはかぎりません。

10:24 だれでも、自分の利益を求めないで、他人の利益を心がけなさい。

10:25 市場に売っている肉は、良心の問題として調べ上げることはしないで、どれでも食べなさい。

10:26 地とそれに満ちているものは、主のものだからです。

10:27 もし、あなたがたが信仰のない者に招待されて、行きたくと思うときは、良心の問題として調べ上げることはしないで、自分の前に置かれる物はどれでも食べなさい。

10:28 しかし、もしだれかが、「これは偶像にささげた肉です。」とあなたがたに言うなら、そう知らせた人のために、また良心のために、食べてはいけません。

10:29 私が良心と言うのは、あなたの良心ではなく、ほかの人の良心です。私の自由が、他の人の良心によってさばかれるわけがあるでしょうか。

10:30 もし、私が神に感謝をささげて食べるなら、私が感謝する物のために、そしられるわけがあるでしょうか。

10:31 こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。



Bible Reference
聖書の記述

10:32 ユダヤ人にも、ギリシャ人にも、神の教会にも、つまずきを与えないようにしなさい。

10:33 私も、人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなのを喜ばせているのですから。

「自分の利益を求めないで、他人の利益を心がけなさい。」という生き方はクリスチヤンの基本です。偶像に関する同じことが言えます。自分の信仰だけを考えるなら、偶像にささげられたものを食べても、それで害を受けるということはないでしょう。しかし、信仰というものを外的的に行なう習慣からまだ抜け出せない人は、それが苦になって、不快感や不信感を抱く場合があるというのです。人の心を思いやるという観点からも、偶像との関わりは極力気をつけるべきです。

ここでパウロは偶像問題以外にも共通の、黄金律を示します。それは「何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。」ということです。これはクリスチヤンのすべての動機となるべきものです。神に救われて神を愛する者は、「許可されているかどうか」、すなわち「許可されている範囲で、自分の好きなことをしたい」というような、自己目的的な律法主義の生き方をしません。クリスチヤンなら誰もが、神様の栄光が表されたらうれしくなります。それを動機として生きるものなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

